

第6回 苫小牧市男女平等参画を推進する市民会議 会議録（概要）

- 1 日 時 令和3年1月19日(火) 14:00~15:05
- 2 場 所 苫小牧市民活動センター 多目的ホール
- 3 出席者 別紙のとおり

4 会議概要

司会：

定刻前ですが皆様お揃いになりましたので、ただ今から「第6回苫小牧市男女平等参画を推進する市民会議」を開催させていただきます。皆様には、大変お忙しい中、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます、協働・男女平等参画室の吉井でございます。よろしくお願いいたします。本日の市民会議は14時から1時間半の予定でご案内しておりましたが、北海道の集中対策期間ということで、コロナウイルス感染防止の観点から、1時間以内で会議を終了させたいと思いますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。それでは、早速、お手元でございます次第に沿って進めさせていただきます。

始めに、苫小牧市男女平等参画都市宣言の唱和についてですが、これは、北海道で初めて平成25年11月17日に宣言したもので、宣言文に込められた理念の普及・啓発のために市民会議開催時には皆様に御唱和いただいております。しかしながら今回の開催にあたっては新型コロナウイルス感染拡大傾向を考慮し、大人数での発声を控える必要があることから、唱和を中止いたしますが、皆様のお手元の次第の裏面に宣言文がございます。私が読み上げますのでご一緒に黙読いただきますようお願いいたします。

（宣言文読み上げ）

それでは、ここからの進行は、市長よろしくお願いいたします。

市長：

御多忙の中、第6回目を迎えました市民会議へ参加いただきましたことを心から御礼を申し上げます。また、同時にコロナウイルスの影響によりまして、本来ならば昨年の6月に会議を開催する予定でしたが、書面会議となりました。今日も担当の方で感染防止対策を徹底しながら、時間も1時間以内コンパクトにまとめて進めて行きたいと思っております。北海道はまだ緊急事態宣言ではなく、集中対策期間ではありますが、市内における感染状況も続いておりますことから、一定の制約を設けた今日の60分間での開催となりますけれども皆様方にはどうぞよろしくお願いいたします。今日のアジェンダの3番目にはなりますがコロナウイルスの影響による男女差についてであります。御案内の通り市民生活、あるいは地域経済だけではなく地域の文化、スポーツなどあらゆる場面でコロナウイルスの影響が色濃く出ているわけでございます。一方でそういった分類だけではなく、テレビ・新聞等で男性に対す

る影響あるいは女性に対する影響等についても報道が多く見られる訳でございます、事前に事務局の方から要請をしていたと思いますが、このコロナ禍におきまして新型コロナウイルスの影響による男女差について皆さんが感じていること身近に感じていること報道等を見て感じることでんなこと、あるいは実際に困難に直面している状況等があれば1人2分以内でまずはお願いしたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。まずは、事務局から新型コロナウイルスについて説明させていただきますので、よろしく申し上げます。

事務局：

本日は、まず、新型コロナウイルスの影響による男女差について説明させていただきますが、北海道の集中対策期間ということで会議を1時間で終了させることになっておりますので、説明はなるべく短く、要点のみ説明いたしますのでご了承ください。

お手元の資料1-2の新型コロナウイルスの影響による男女差について説明させていただきますがスクリーンを見ながら説明をお聞きいただければと思います。全国の雇用者数ですが、コロナウイルスが蔓延した2020年3月の雇用者数は男性が32万人減、女性が74万人減と女性が大きく影響を受けております。次に休業者数ですが、2020年4月には男性の休業者数が240万人、女性の休業者数が357万人と女性への影響が大きくなっております。次に産業別就業者数の前年同月差については男性のほうが影響を受けている産業もありますが、小売、宿泊、飲食、生活・娯楽と女性の非正規雇用者が多いと推測される業種では、女性が影響を多く受けております。次にDV相談件数の推移ですが2020年は4～6月の配偶者暴力相談支援センターの相談件数が前年比1.3倍程度になっております。また、2020年4月から始まりましたDV相談プラスも相談件数を増加させております。次に自殺者数は男性が多いものの、2020年7月以降に女性の自殺者数が増加しておりまして、10月の女性の自殺者数は特に増えております。ここに資料の掲載はありませんが、苫小牧市の状況に関しまして、ご説明しますと、平成30年の自殺者がピークの44人で、令和元年は24人、令和2年は1月から11月の数字ですが25人となっております。また、全自殺者に占める女性の割合は平成30年29.5%、令和元年25%、令和2年40%と全体に占める女性の自殺者の割合は全国の状況と同様に苫小牧市でも増えております。続きまして、苫小牧市が行ったコロナウイルスによる影響についてのアンケート結果をご紹介します。それぞれのグラフから働き方への不安・仕事の見通しの不安は男性が抱えており、子どもの世話や食事の支度、掃除といった家事の負担は女性が抱えていることがわかりました。食事や掃除などの家事の負担は女性に増えている傾向がありまして、仕事の業務量は男性に増えております。これらのグラフから、雇用の問題や家事の負担、DVの被害についてコロナウイルスの影響が大きいのは女性で、男性は仕事に、女性は家事にという意識が強く、性別の固定的役割分担意識が高いことがわかりました。説明は以上です。

市長：

それでは先ほど申し上げました今の状況あるいは、この問題について感じたこと、感想等を1人2分以内程度でお願いしたいと思います。

メンバー：

今のこのコロナのことで、私たちの会ネットワーク苫小牧に駆け込んできた女性がいました。「今日で、もう仕事に来ないでください。」と言われたそうで、私は仕事なくなりましたが、どうしたらいいですかという相談がありました。就職率が良くなったと国は言っていますが、就職率が良くなっても正規雇用者の方は少ないんです。女性の非正規雇用者の方が多いということで、こういう事態になったときに一番先に首を切られるのは女性だということが本当にわかりました。相談に来てくださった方も雇用契約も何もなくて、首を切るにしても予告があるはずなのに、それもなかったということになりまして、相談の中で1ヶ月分の給与をもらうことができるようになりまして、もう1ヶ月分は何というお金か忘れましたが2ヶ月分の給料が請求できるということで、その方は、お正月をなんとか迎えらるということで帰られました。こういう時代になった時に一番先に悲しい思いをするのは、女性だなと感じて、お正月を迎えたところですよ。1月は23日が相談日ですが、また難しい問題も入っておりますので、本当にこれからのコロナ禍の中で、どうすれば、私たちが本当に安心して暮らしていけるのか。そういうところを私たちは模索しております。

メンバー：

私自身、FJ北海道、お父さんの子育てを支援している団体でもございますし、私自身小学生と保育園児の子どもを抱えて子どもを育てております。やっぱり子育てのところで、困っていること心配事は女性の方でも多かったのですが家事や子供の世話の負担等、私自身子育てをしている世帯としても非常に負担が大きくなっています。今でこそ大人の方皆さんこうしてマスクをしておりますけど、保育園に子どもを連れていくとなるとマスクを嫌がることから始まったり、小学校、保育園幼稚園の登園自粛要請もそうですが、小学校もいつ休校になるか、いつ休んでくれと言われるかわからない。不安いっぱい状態で過ごしております。幸い私個人で勤めている職場の方は、なんかあっても健康体であつたら子どもは最悪子連れ出勤でもと言っていたいてはいるんですが、やっぱりそうは言っても出来るかといったらそうでもないんでしょうし、さらに先が見えない。プラス小学校もコロナのせいで授業が遅れたり行事が無くなったり、子どもたちは本当にものすごいストレスを抱えています。学校の先生とお話しても、やっぱり今年はおかしい、みんな気持ちも停滞気味、本来だったら楽しい行事もあつたはずだったのにそれも無くなってしまつて。ただただ勉強だけが行われて。本当に今小学生勉強しかしていない。勉強漬けになっています。スピードが速いです。そういうところでお父さんお母さんそれに対応しなきゃいけないということで、私自身本当は団体としてどうこの話をしなければいけないはずなんですけれども本当に私ここ何か月かコロナが流行り始めてからこういうことしかやっていないです。

先の見えない不安をどうすればいいのかというところが課題なのかと思っています。

メンバー：

今2点大きく思っています、女性に対して今ご説明ありましたとおり我が家を振り返っても昨年の3月4月あたりは学校も休校になって2食で良かったところ3食作らないといけない。朝から晩まで食器

洗いをしている。これを横で見ているも本当に大変だしストレスだろうなどは感じていました。それから去年の今の状況から考えてもかなりコロナに情報が日々変わっており、国の色々な施策、知事や市長が発する色々なことをテレビで見れば見るほどわからなくなってきて、ちょっと咳や鼻が出ていたら、これは外へ行かせていいのか、病院に行かせていいのか、それによってPCR検査になったら今度家族が外に出れなくなるから、そういう考えすぎてストレスがどんどん溜まっていったんじゃないかと凄く感じてます。ただ、やっぱりそういうのをみんなで、各家族の中で共有しあいながらストレスを緩和していく方法を見つけていかないといけなくて、みんなどこかに攻撃する相手を見つけたがるんですが、そうじゃないんだってことを市長の記者会見でも言っておられますが、今一度人権とか家族に対する愛情だとかそういうものを考えていかなければならないんじゃないかと思います。それから最後、男性、女性もそうですがこのコロナ禍で休業だとかを求めていたり雇い続けなければいけないという経営者の立場だと非常に社員の能力の差がすごく出てるというのを聞きます。仕事量の高い人であればそれなりにやってくれるんだけど、雇い続けなければいけないけど、そういう働き、期待に満たない人たちもいっぱいいるというのは如実に現れているというのも色んなところで聞きます。ですから日本全体で踏ん張りどころだと思うので苫小牧においても自殺の話にもありましたが、皆さんで何か共有しながら乗り越えていければと思います。

メンバー：

思っていることは皆さん色々あると思うんですけど私は子どもが一人いて、一ママとしては去年緊急事態宣言が出た後に、すぐ周りのママとか看護師さんたちが次の日から出勤が出来なくなるというニュースを見て、たった一日も自分の代わりに子どもを見てくれる人がいないだということに衝撃を受けて、それだけやっぱり学校と幼稚園と母親だけで見ててというのが、今回のコロナで見えるようになって。ずっと言われてきたことだけど実感が伴っていると思うので、ぜひこれを基に変わって行って、この10歳までの子どもを安心して預けられる環境を充実させるっていうところにも、より熱量を向けて話が進んでいったらいいなと思います。あと周りに飲食店をしている人がいまして、結構苫小牧の飲食店は今厳しくて、来てとも言えないし、でも今コロナが出たお店が感染対策をしていたか、いなかったかって問題だけじゃなくって、ここまで来たら運の問題というか。出たお店を叩いたりとかそういうレベルではなくて、お店の人たちも結構疲弊して閉めているお店も多いので、何か変わっていけばいいなというのは感じています。

メンバー：

私も会社を経営しております。まず身近なところではコロナによる感染拡大の影響というのはそれほど実は感じていません。ただ、障害者の方、グループホームなどそういった団体生活をされている方が、とても制約を受けているということで、実家にも帰れないという話も聞いておりますので、そういった面では影響があると思います。あと雇用の面で先ほど話もありましたが確かに業種によって非常に大きな

影響を受けてマイナスのところもありますけど、逆に一方で人手が足りないところの業種もたくさんある。特に医療の問題もそうですけど保育の問題もあります。そういった、そちらに人を向けられないのか。逆にそういう良いチャンスなのではないかと思います。

齊藤：信金の齊藤です。宜しくお願ひいたします。今朝の新聞にもコロナの長期化による立場の弱い女性が苦境に立たされているというような記事がありまして、世の中それが実態なんだなとつくづくわかりました。DVの問題や雇用の問題その辺がよくわかった記事でした。ただ、私個人的な話を申し上げますと私の身の回りに限っては、会議に水を差すような話で申し訳ないのですが、コロナの影響による男女差というのは職場においても家庭におきまして特に感じないというのが実感です。まず、職場におきましては男女の差がどうのこうのと言う前に何より今は企業として感染防止をいかに防ぐかというところに全集中を行っております、それをまず第一としておりますゆえ、男女の差がどうか議論する余地が微塵もないという実態です。また、家庭内におきまして、個人的な話で申し訳ないんですが、私の場合は子どもたちも独立してまして、親の介護も終了している、そういう状況の中で夫婦二人だけの生活で女房も働いております。そういう状況の中でコロナ禍における男女の差ですとか夫婦の差といったものは感じたことはありません。今日念のために女房に同じ質問をしたところ「ありえない話ね」と一蹴されました。そういったことで私の場合はコロナの影響による男女差というのは非現実的なものとなっているのが実態です。お役に立てる話ではなくて申し訳ありません。

メンバー：

私自身、小学校の子どもと保育園に通っている子どもがいますけれども学校が一斉休校になった時に、会社の方とすぐに在宅勤務が出来るような制度が整えていただいたんですが、やっぱり子どもが家に一日中いながら仕事をするというのは親子共にすごくストレスが溜まりまして、子どもにとってもあまり良くないというか、仕事なので話しかけないでって、やっぱり怒鳴ってしまうことも結構ありましたのでお互いすごくストレスが溜まったという印象があります。また、私の周りが***で働いている方が多いので、日頃から御主人が育児に参加したり家事を手伝ってくれているという方が多いですが、こういった緊急時になった時に誰が仕事を休むのかとか子どもの世話をどうするのかを考えるのは、やっぱり女性の方が主になりますので女性が考える、仕事をしながらこの先どうしようとする精神的なストレスもありますし、女性が考えたところを男性が手伝うというような域を超えないとなかなか男性が育児を手伝うというような域を超えることができないのかなと今実感しています。

メンバー：

私もこの会議のためだけというわけではないんですが、職場で周りの女性に今心配事はないかという話をよく聞くんですが、やっぱりそうした中で聞きますと朝から晩までご飯を作ってるようだとか仰る女性、あるいは買い物に行くこと自体がやっぱり感染を考えた場合にはちょっと不安だというようなことを仰る女性がいらっしやいます。先般、雑誌か新聞で見たんですが**の調査で家族と過ごす時間がコロナ

禍において増加した結果、男性と女性の満足度の低下幅に差があると。女性の方が低下幅が大きいというような結果をどこかで書いてあったのを見たですが、やっぱりこういう意味では女性の方に負荷がかかっているというのがあるのかなと思っています。やはり企業もBCPという形でどんな時でも事業継続はできるように役割分担というのを考えているのと同じように家庭でもその役割分担を上手くやって、そういう世の中のストレスに対して何とかそこをクリア出来るようになっていけばいいのかなというのは一つ感想としてあります。あともう一点ですが、そうした中で、やはり企業としての役割とは何だろうかというのがあります。コロナにはこういった男女差の問題に対して企業が何か凄く大きなことでバックアップできるというのが中々見つけるのが難しいところはあるんですが、今回当社でいきますとコロナを使って上手く過去のしがらみをちょっと改善したという良い事があります。これは来客の時のお茶出しを止めましてペットボトルを置いておくということをしました。これも何だそんな事かというようなことではあるんですが、やっぱり中々出来なかったことが出来たというのが一つ。もう一つはお子さんの看護休暇について、これまでは小学校入学前のお子さんに対して看護休暇というのを与えていたんですが、それを小学校卒業までということにしました。やっぱりこれはコロナで学校が休みになったり幼稚園保育園が休みになったりというのを見た上で、こういったことも必要かと考えたものでありますけど、こういうちょびっと、これまでの常識を変えるというきっかけにもコロナというのはなるのかなと思いました。

メンバー：

万全たる思いでいるんですが私の身の回り見てますとやはり既婚の女性、特にお子様を持つ主婦も兼ねながらパートもしくは正規で働いている女性が一番負担が大きいかなと思います。男性はやはり会社の一つの流れの中に入っていけるんですけど、女性の場合それプラス家庭、子育てというのがどうしても分担しているとは言いつつも、どうしても女性でなければできない、主婦で、お母さんじゃなければというのが大きい。それを考えると今コロナの影響というのは一番主婦が大きく、本当に頑張っているのではないと思います。私の妻は褒めても答えてくれませんが褒めて言っております。

もう一つ俗っぽい話ではありますが、本当に錦町が全く元気がないです。我々お客さんと一緒に使っているお店なんてほとんど店を閉めている状態です。そこに働く接待を伴う女性という大事な役目なんですけどその方々とお話すると大体小さいお子さんをお持ちで昼間は働けなくて、それでどうしてもそういう場面で賄っているという方が多いんですが、今皆さんどうしているのかなと。本当に収入もなくお子さんがいてどういう生活をされているのかなと。お店は色々な形で補助が出るんですが、そういう形で働く女性一人ひとは本当に辛い思いをしているんじゃないかなと、個人的な思いもありましてちょっと感じてました。

メンバー：

私は今会社で人事関係もやっているんですがコロナ担当みたいなことになっていて工場働く社員50

0人超と関係会社合わせて1000人超のコロナ情報が日々入ってくる立場にあります。そこで私どもの工場は、工場なので男性が圧倒的に多いんですけれども工場でも働いているだけでコロナになるということはまずまずない場所なんですけれども、大体寄せられてくる情報が配偶者の方、奥様とかが医療関係をやっている濃厚接触者になっちゃってとか、介護関係をやっている濃厚接触者になっちゃってとか、保育をやっている濃厚接触者になっちゃってという情報がかなり多くて。先ほどのグラフのところでも男女別に困っていることや心配なこと、苫小牧市の感染リスクへの不安が圧倒的に女性の方が高いんですけれども、もしかしたらこの街は普通の街に比べて男女の職業差が多分大きめに出ている街ですから女性の方がより感染リスクの高い職業に就いている率が高いんだなということを改めて実感しました。やはり皆さん一つの家族だったり街に暮らしているわけで全然無関係ではないんですが私共みたいに工場みたいな外と隔別された世界にいるから安心とかいうわけではなく、この街の人全体に目を向けていかないと運命共同体としてのこの街が良くなっていかないのかなと実感しています。

メンバー：

コロナ影響による男女差というのは、かなり事務局でまとめていただきましたのでより状況の深刻さを把握したところであります。ありがとうございます。さて身の回りの男女差のご紹介ということで結論から申せば私共は苫小牧の事務所で著しく問題となっていることは幸い起きていない状況です。雇用状況は以前のままですし、女性の負担やストレスが増すとされます夫の在宅勤務は、ここ苫小牧の事務所ではほとんど実施されていない。誤解のないように申し上げますと弊社自体が札幌の本社の企画管理部門中心に在宅勤務に取り組んでいるところで、メディアなんかでは凄くやっているように見えるんですが、現場はちょっと違うというところです。男女差、在宅勤務はそれほどなくて、やはり女性に負担がかかっている事例があります。私も職場を周って聞いてみましたが主に家事もそうですが子育てに取り組むお母さん方が苦勞されている。やはりステイホームで外で遊べないということ。特に幼児を持つお子さんは一日中ちゃんと付き添っていないということもありストレスが溜まっている。このストレスの解消のために、旦那がいますうちの社員は休日良い影響だと思いますがコロナ前よりは家事育児を手伝うようになった、決して悪いことではなく、夫婦仲を良くする意味でも夫婦の試練になっているのかなと思います。

メンバー：

コロナにおける男女差ということで2つ感じているところがありまして一つは女性の保育園のお子さんがある女性の方がいるんですが、お子さんの体調が風邪症状のときは大事をとって休んでくださいとお願いされることが多かったみたいで、それを理由に私が見ないといけないので休ませてくださいという話が数回ありまして、それ自体が嫌なわけではなく、ひとり親ではなく共働きされているけど、やはりそういう役割分担が根付いているのかなと実感しています。もう一つは私はリクルートの担当をしておりますが、最近よく聞くのがリクルートの関係の会社の方と話していると女性の異業種の方を採用される

気はないですかというのを最近よく聞かれます。そういった方達が潜在的に多いということと建設業ではありますけれど男女差は設けていなくて募集はしているんですが、中々来ないという現状があります。やはり建設業界のイメージがまだまだ男社会というところがあるのかなというところで、そういったところをまず払拭していかないと仕事がある業界ではあるんですが選択肢にも入っていないのかなというのがありますので、そういったところを業界を通して変えていかねばいけないのかなと思います。私も子どもがいるので蛇足ですが、去年出張が大幅に減りまして、自宅にいる機会が非常に増えました。仲間内で話してコロナDV、コロナ離婚とかありますけど仲が良くなったのか悪くなったのか話に上がるんですけど実際に一緒にいる時間が長くなったことで仲が悪くなったとか櫻田家は色々ありますけど、非常に子育てについて色々なことを話す機会にはなったのかなと。うちも緊急事態宣言の時に高校生の娘がいたので共働きしながら、子どもが家にいるので下の4歳児の面倒を見てくれたり非常に助かったなというのがあるんですが、そうじゃない人もいっぱいいるなと。うちは大きな子がいて良かったなと思います。

メンバー：

弊社の話をさせていただきますと男性が多い職場ですけれども業務に関しては特に大きな影響はありませんでした。それがなぜ影響がなかったのかというと、社員と話をしていきますと学校が休校になった時に妻がパートの時間を短縮して子どもの面倒を見たりとか、辞めて子どもの面倒を見ていたから弊社の社員は特に影響はなかったという話をしている社員が結構多くて、やはり家事の主体は女性だという考え方が古いのかなと感じまして、家族の方にかなり負担をかけてしまったと反省をしているところです。女性職員は事務職員しかなくて、その職員に関してはテレワークを推奨して子供の面倒を見れるようにしたりですとか、そういうことは出来たんですが、男性の職員に関しては各現場に配置されていて抜けると業務に支障が出てしまうという側面が大きいものですからなかなか家庭の事情に合わせて柔軟に対応することが出来なかったものですから、反省するところで、これからそういった面でも、またこういう事態が続くこともあるかと思いますので柔軟に対応できる制度を作っていければいいなと思っています。

市長：

ありがとうございました。一通り全員にですねこのコロナかにおける思うこと、あるいは気が付いたこと等について指摘をしていただきました。言い忘れたことやあるいは何かお互いに質問したいことはありますか。

メンバー：

さっきも少し触れたんですが、人権的な話でコロナかでSNSを中心に色々な噂がお母さん、子供達に回っていて勝手に人を殺したり学校を辞めさせていたり、そういう話がでて私のところに色々な人がそういう苦小牧を変えてくださいという話があるんですが、事実確認をしたらみんな元気に生きているし、

学校もやめていない。そういうテレビでも最近言い始めていますが、情報をちゃんと確認をすることを職場ですとかご家庭、学校においてもぜひ周知をしていただきたいと思います。議会で普段話せないためこういう場で話させていただきます。宜しくお願いいたします。

市長：

苫小牧で一番最初に感染報告があったのが2月22日でした。2名、翌23日2名、2月29日に1名。1週間で5名の感染報告があつて一気に緊張感が高まったのでありますが、その時にもやはり金澤さんが言ったこととシチュエーションが違いますが、SNSで誹謗中傷が現実にあつて、感染者の高校生のお子さんのお母さんが大変商売に影響を受けたという事実がありました。これは非常に残念なことでありましてけれども、それ以来公表も個人の意思がないと苫小牧市は苫小牧市民が感染したということは公表していないのですが、「全部市長隠しているでしょ」と非常にお叱りを受ける。基本的なルール、感染症法、あるいは個人情報保護法がやはり認識されていないものですから、公表は北海道がすることになっている。苫小牧市はあえて2月22日に御本人の了解があつたら苫小牧市の権限でしている。それがどうしてもご理解いただけなくて、そういう不満を持った人たちの中から別な誹謗中傷が始まったり非常に残念な思いをしながら、今でもまだ数は少なくなつたんですが、続いている状況があります。これは苫小牧だけではなくて全国的な傾向かと思ひますけれども、そういうことをどうやったら知ってもらえるのか、どうやったら理解をしてもらえるのかというのも中々大変厳しくて難しいミッションになっていますので、ぜひこれからも、皆様新聞読まない方やテレビを見ない方も増えてきているので行政としての課題となっています。その他は宜しいですか。今日はあと2つ皆さんにご説明したうえで御意見をいただくことがあります。今日頂いた身近なこと、思いは全部記録させていただいておりますので今後の市の施策展開等でも参考にさせていただける部分については、しっかりと参考にさせていただきたいと思ひますし、我々の最大のテーマでもある男女平等参画という観点、視点から今回のコロナ禍の状況、立場で見ていってほしいなという風に思ひます。それでは次の項目に入りたいと思ひますが、今年度やる予定が中止となつておりました自分らしさ応援EXPOについて令和3年度に実施しようと考えておりますが、この事業に対する概要説明を事務局の方からしていただきたいと思います。

(事務局説明)

市長：

ただいま説明がありました。冒頭にも言ったように全体の時間設定を少し短くなつていますので十分な説明ではなかつたかも知れませんが、この場で何かご質問、ご指摘ございましたらお願いしたいと思ひますがいかがでしょうか。

メンバー：

昨年はこういった状況の中で開催できなかつたということですが、実際にこの先もどうなるかわからな

い状況で実際に今考えていらっしゃるの人は人を集めてやることだけを考えているのか。もしくはそれ以外オンラインなどによる形も含めて考えているのか。私の意見としてはオンラインでもやった方がいいんじゃないかと。集めるとかそういうことだけで判断しないほうがいいんじゃないかと思います。

市長：

事務局から

事務局：

今のところは人を集めてという設定でいます。ただ吉田会長の方からご指摘があったように今後の感染状況によりましては形態を変えたりですとか一人でも多くの方へ開催の趣旨が伝わるようになるように色々検討していきたいと思っておりますので、またその時には皆さま方から色んな意見を頂戴し進めていきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

市長：

現時点でなかなかそういう状況になるかというのは、良く考えればワクチンが非常に思った以上に効いてということも考えられなくはないし、その逆もあるし、何とも言えませんが、その都度皆さま方のご意見も聞いて願わくばどんな形でもやりたいなという思いがありますけれども、逆にその時点で緊急事態宣言で危ないような時にはこれは中々難しい。これは行政も関わった組織でもありますから中々難しいとは思いますが。状況によってこれからまたどうなるかということもありますので現時点では説明したようなことを企画案として準備を進めていくということで宜しいですか。ではそのような形で宜しくお願いいたします。それではアジェンダの5番目になりますが、市民会議で昨年あるいはそれ以前の議論の中でミッションステートメントとなっております「10歳までの子どもを安心して預けられる環境を充実させる」というテーマについて、どのような方向性でミッションを達成していくかについて考えていきたいと思っております。まずは事務局のほうから説明させますので宜しくお願いいたします。

(事務局説明)

市長：

それでは今の苫小牧市の現実の実情についてデータで説明させていただきました。やはり0～2歳が一番の課題になっているということであります。今日は限られた時間でありますので気が付いたこと、あるいは質問等ありましたらペーパーに書いて出していただきましたのですが、このことについて触れていましたがどう思いましたか。

メンバー：

病児病後児や今回のコロナとか緊急事態の時に預けられる場所というのが少なくて子どもが熱が出たときとか、こういうふうには確保されてると言われている中でも、0～2歳ではなくても子どもが熱を出し

た時に預けるところがないとか根本的な問題もあるのかなと。周りの友達で結構保育士さんがいるんですが自分も子育て世代なんです。自分も子育てしながら自分も保育士として戻りたいと思っても給料面で皆さんちょっと戻れないかなという声をよく聞くので、そういう待遇とかこういう取り上げていただいて喜ぶと思います。

市長：

それでは皆さん忌憚のない意見、あるいは示唆、質問等がありましたらペーパーでお寄せいただきたいと思います。ご提出いただいたご意見、あるいはご指摘等については次回の市民会議までに事務局でまとめて市民会議の中でご紹介しながら出来る事、方向性を明確にしながら具体的に取組んでいきたいと思っています。最後に皆さんからご発言ある方はいらっしゃいますか。

メンバー：

口頭なんですけど、子育てシェアというアプリがあるので、ぜひ皆さんググっていただければと思います。詳細は事務局にお任せいたしますが、1回500円でアプリで子どもを仕事でお迎えに行けないとかいう時にこういう困ってますと言ったときに知り合いで登録している人が動けるというサービス。これは手数料とかではなくて保険とか入っているというサービスで、ここの人口の中でどれだけ登録しているかというそういう問題もあるんですが、すごくそういった意味では有用で、行政や団体とかが無料のコミュニティを繋げるような仕組みを作ったりという運営をしていて、これは民間でやっている。色んな助成金を使ったりして原資を確保したりというもので良かったら参考にいただければと思います。

市長：

そういったご紹介、情報を含めてぜひ届けていただきたいと思います。それでは今日は本当にコロナ禍ということで制約のある中の市民会議でしたが駆け足で不十分な部分がたくさんあるかと思いますが、今日のポイントはしっかりそれぞれ押さえていただいて、願わくば来年度予定した事業が具体的に市民を巻き込んで展開できるようになることを願いながら締めのご挨拶とさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。

MC：

皆様ありがとうございました。ここで事務局からお知らせがあります。

事務局：

今日は本当にありがとうございました。先程ご意見でもあったように今年度男女平等参画を推進する事業がなかなかできずに現在に至っております。そこで限られた方にはなるんですがSNSでの啓発事業について事務局で行っています。パソコンでkyodosankakuと検索していただければfacebook、Twitter、Instagramの方で写真付きで載せております。もしご覧いただけましたら良い悪い含めてご意見いただけますと大変ありがたいです。また、お手元に昨年11月に実施しましたワークライフバランス等企業表

彰の表彰企業の紹介をさせていただきました。今年度につきましてはヨコハマタイヤリトレッド(株)、社会福祉法人みやま福祉会おとわ保育園、(株)喜心 style 創作四川料理 HIROAKI さんを表彰させていただきました。後日で宜しいので目を通していただきますと幸いです。

MC :

次回、第7回の市民会議は、コロナウイルス感染症の状況次第で予定は前後するかと思いますが、春以降に実施を予定しておりますので、宜しく願いいたします。また、お手元にアンケート用紙がございますのでご記入いただくかメール等でも結構ですのご意見などいただければ幸いです。以上で第6回市民会議を終了いたします。ありがとうございました。